



【南九州市鳥獣被害防止対策事業補助金】

鳥獣被害を防ぐための電気柵等設置を支援します！

南九州市では、イノシシ等の鳥獣（鳥類または哺乳類に属する野生動物であって、農作物多大の被害を与えるもの）による農作物への被害の防止・軽減を図るため、予算の範囲内で、電気柵等の購入費用の一部を補助します。

補助の対象と金額

項目	詳細内容
対象となる者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内に住所がある 個人農業者 または 市内に事業所、営業所等がある法人 ○ 市内で農地を所有し、または耕作している方（家庭菜園は除く） ○ 電気柵等を設置する農地は、販売目的で農作物を生産していること ○ 今後も耕作を続ける見込みがあること
対象となる経費	電気柵、防護柵その他の鳥獣による被害を防止するための施設（電気柵等）の購入費
補助金額	補助対象経費の 3分の1 以内 【上限3万円】 ※ 1,000円未満の端数は切り捨て
対象外となる経費	<ul style="list-style-type: none"> × 補助金交付決定前に購入・発注したもの × 中古品の購入 × 運賃、施工費等の付帯経費 × 個人間の売買による購入 × 電気柵について、本体を含まない資材のみの購入（新品の電源装置本体を含む一式購入を条件とする）

申請受付期間

受付期間

令和8年4月1日から（予算の上限に達し次第終了）

[注意] 同じ世帯の方による、同一年度内での追加申請はできません。

申請の手順

Step 1 窓口で相談または HPで様式をダウンロード（右下のQRコードをスマホで読み取り）

Step 2 見積書などの必要書類を準備する

- 見積書の写し カタログの写し（対象の電気柵等に印をつける）
- 農産物の販売証明（個人間の売買は不可）または 出荷伝票の写し ※ 認定農業者・認定新規就農者は不要
- ほ場の所在地がわかる地図（手書き可）

Step 3 各庁舎窓口へ提出

- ・ 農業振興課生産流通指導係（額娃庁舎2階）
- ・ 知覧支所農林係（知覧庁舎本館1階） ・ 川辺支所農林係（川辺庁舎別館1階）

Step 4 審査・交付決定通知後（申請書受理から2週間程度）に購入・発注

[注意] 交付決定前の購入は補助対象になりません。

※ 交付決定後の手続きは、交付決定を受けた方へ個別にご案内します。



市ホームページへ移行

提出書類のチェックリスト

市の指定様式（窓口またはHPでダウンロード）

	様式名	詳細内容
<input type="checkbox"/>	交付申請書	記入例を参考にご記入ください。
<input type="checkbox"/>	申請確認票 及び 誓約書	記入例を参考にご記入ください。
※	事業計画書／収支予算書	省略（提出不要）

ご自身で準備いただく書類

	書類名	詳細内容
<input type="checkbox"/>	見積書の写し	販売店などが作成した見積書の写し <対象外となる経費> ・ 中古品の購入 ・ 運賃、施工費等の付帯経費 ・ 個人間の売買による購入 ・ 電気柵について、本体を含まない資材のみの購入 (新品の電源装置本体を含む資材一式での購入が対象です)
<input type="checkbox"/>	カタログの写し	購入予定の電気柵等に○（丸印）を付けてください。
<input type="checkbox"/>	農産物の販売証明の写し または 出荷伝票の写し	JAや直売所、市場などの出荷先から発行されたもの ※ 個人間での売買（知人に売ったなど）による証明は対象外です。 ※ 認定農業者・認定新規就農者は提出不要です。

【参考：主な電気柵のセット例】

電源装置関係	電気柵用電源装置 バッテリー・ソーラーパネル	柵本体	柵線（ワイヤー・電線）
固定部材	支柱（ポール）／フック碍子	アース（接地）関係	アース棒／アース線
出入口用資材	ゲートハンドル／ゲート用碍子 ゲート用ワイヤー（スプリング等） 接続金具・ゲートクリップ など	安全・管理関係	危険標示板（注意表示看板） 電圧測定器（チェッカー等）

交付決定通知後の手続きの流れ

Step 4 審査・交付決定通知後（申請書受理から2週間程度）に購入・発注

Step 5 納品検査を受ける

物品が届いたら開封せずに農業振興課へご連絡ください。

当課職員において、正規品であることを確認した後、開封のうえ納品検査を行います。

【連絡先】 ☎ 農業振興課 生産流通指導係 TEL：0993-36-1111

Step 6 実績報告書用の添付書類を提出（メールでの提出可）

設置状況の写真（数枚）：電気柵本体や注意表示板の取付状況、ほ場全体の状況がわかる写真

領収書（納品書又は請求書でも可）の写し

Step 7 請求書の提出

請求書（指定様式） 通帳の写し（振込先確認用） ※ 既に市に登録された口座がある場合は不要。

Step 8 補助金の振込

電気柵の設置・安心管理チェックポイント

【設置時の確認：100%の力を引き出すために】

 専用の電気柵用電源装置（安全基準適合品）を使用しているか

【理由】 家庭用の電気をそのまま流すと死亡事故に繋がります。必ず電気を通したり切ったりを繰り返す「パルス式」専用装置が必要です。動物が触れた瞬間に「バチッ」と衝撃を与えつつ、すぐに電気が切れることで、動物が自力で離れられる安全性を確保します。

 アース棒は「湿った地面」に根元まで深く打ち込んでいるか

【理由】 アースは電気の「戻り道」です。地面が乾きすぎていたり、打ち込みが浅かったりすると、動物に電気が流れずショックを与えられません。

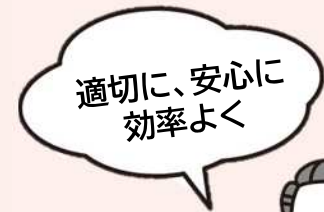
 狙う動物の「鼻の高さ」に電線が張られているか

- ・イノシシ：20cm間隔で2～3段。1段目は地上から20cmに。
- ・アナグマ：10cm間隔で4段。1段目は地上から5～10cmに。

【理由】 動物は一番敏感な「鼻先」で障害物を確認します。毛の深い体に触れても痛くないため、鼻先を確実に狙う高さに調整しましょう。

 誰でもすぐ電源をOFFにできる場所・構造になっているか

【理由】 緊急時や点検時に、誰でもすぐに安全に電源を落とせる状態にしておくことが安全管理の基本です。



【安全対策：地域と子供たちの安全を守るために】

 危険を知らせる「表示板」を、子供の目にも入る位置に掲示しているか

【理由】 法令で義務付けられています。特に通学路や生活道路付近では、誰もが「触れると危ないものだ」と一目でわかるよう配慮してください。

【日常管理：効果を維持するために】

 周囲の草刈りを徹底し、電線に草や枝が触れていないか

【理由】 草が一本触れるだけで、そこから電気が逃げる（漏電）最大の原因になります。漏電すると電圧が下がり、動物が平気で突破します。

 電線のたるみや破損で「隙間」ができていないか

【理由】 たるんでいると、動物がワイヤーをくぐり抜けたり、跨いだりしやすくなるだけでなく、地面に触れて漏電する原因にもなります。常にピンと張った状態を保ちます。

 電圧チェッカーを使い、常に「4,000V以上」をキープしているか

【理由】 動物が痛みを感じて「ここは怖い」と学習するには、4,000V以上の電圧が必要です。乾電池の場合は残量不足にも注意しましょう。

 栽培期間中は常にスイッチを入れ「24時間」ずっと通電しているか

【理由】 動物に「ここは常に危険だ」と学習させることが重要です。「昼間はいないから切っておこう」という油断を動物は見逃しません。一度でも「痛くない」と覚えられると、その後は突破されやすくなります。

 異常があった場合は使用を中止し、購入店や専門業者に相談しているか

【理由】 無理な自己修繕は事故のもとです。電圧が上がらない、漏電ブレーカーが落ちるといった場合は、すぐにプロへ相談してください。

【重要】電気柵本体の盗難被害が多発！大切な資材を守りましょう

農作物を守るための電気柵が盗まれるという、許しがたい被害が報告されています。
電気柵本体（本機）が盗まれると防護機能が失われ、鳥獣被害の再発にもつながります。
設置者の皆様は、以下の対策を参考に盗難防止を徹底してください。

「外せない」対策：持ち去る手間を増やしましょう

見えにくい場所に隠す

本体を道路から直接見えない位置に設置するか、カモフラージュ用のカバーや箱の中に入れることで、道路から「高価な機械がある」とわからないように隠してください。

ワイヤーロックの活用

自転車用のダイヤルロックやワイヤーロックなどで、外れない支柱や杭と本体をつなぎましょう。

特殊ネジの使用

誰でも持っているプラスドライバーでは外せない「六角ネジ」などで固定し、簡単には持ち去れないようにしましょう。

高い場所へ設置する

手が届きにくい高い位置に設置することで、取り外しの手間を増やさせます。

「消せない」対策：油性ペンでは足りません！

名前を大きく記入する

本体が目立つ場所に、はんだごてによる「刻印」、スプレーやペンキの塗料による「着色」、グラインダーやルーターによる「切削（削り込み）」などにより「〇〇所有」「〇〇農園」と大きく記入してください。

消しにくい状態で名前が入っていると、転売が困難になります。

「近づけない」対策：犯人に「見られている」と思わせる

警告看板の設置

「防犯カメラ作動中」「GPS追跡中」など、実際にカメラを設置していなくても、本体の近くや農地の入り口に警告ステッカーや看板を出すだけで抑止力になります。

「GPS追跡装置装着済み」といった表示も効果的です。

センサーライトの活用

夜間に人が近づくと光るライトを設置するだけで、犯行を断念させる効果があります。

地域の目による防犯

不審な車両への注意

農地付近で見慣れない車両が長時間停車している、または夜間にライトをつけて作業している人物を見かけたら、お互いに声を掛け合ったり、情報を共有したりしましょう。

異変に気付いたら、持ち主に確認するなど、地域全体での見守りをお願いします。